

2023年

# 『東日本大震災』記録

13年の今 復興が進む『解除区域』



福島イノベーション・コースト構想 南相馬市『ロボットテストフィールド』

未だ震災当時のまま 『帰還困難区域』  
居住環境整備 『特定復興再生拠点区域』



『帰還困難区域』  
浪江町津島地区集落



『特定復興再生拠点区域』  
浪江町コミュニティセンター

環境省 環境カウンセラー 長澤 利枝

## 《福島県相馬・双葉地方…2市7町3村》

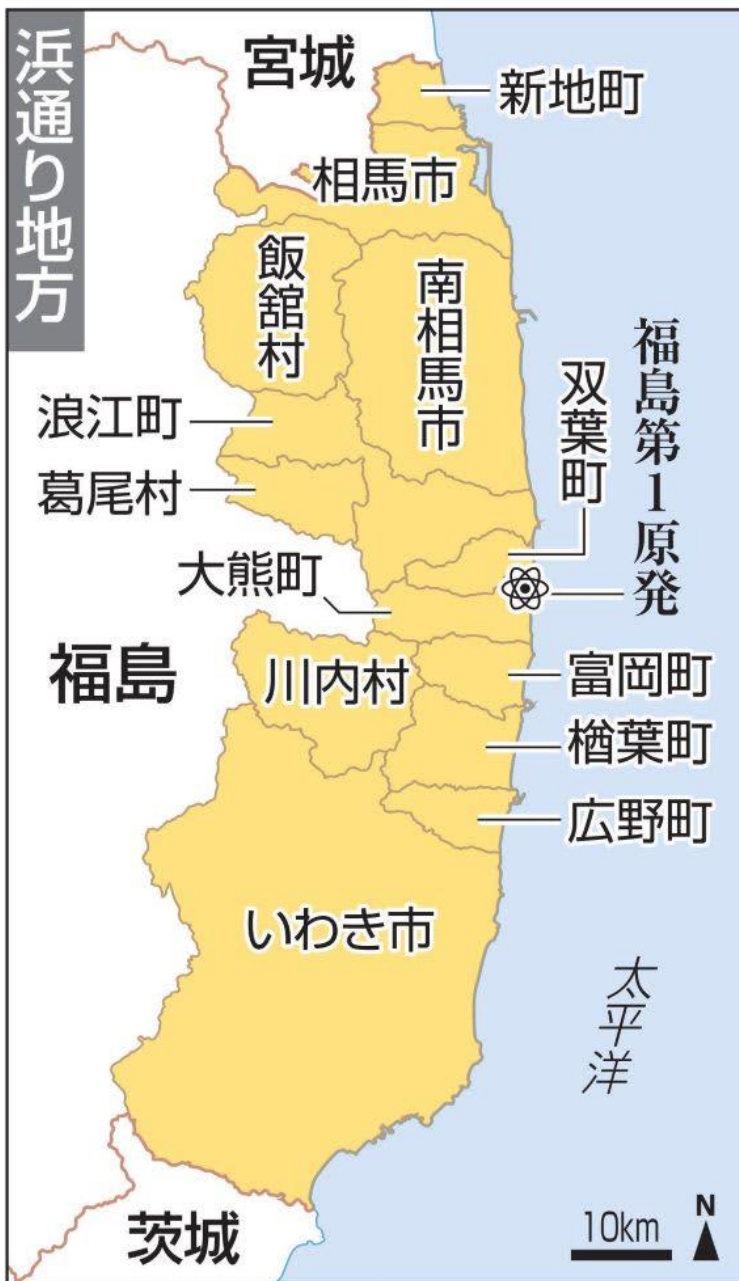
相双地方は、相馬郡・双葉郡 12 市町村で成る。西に阿武隈山脈、東に太平洋、農業・漁業・林業・酪農が盛んで、人々は豊かな自然と共生の生活を営む。

民俗芸能の宝庫でもある。国重要無形文化財指定『相馬野馬追』は有名だ。「一年は、野馬追で始まり、野馬追で終わる」暮らしのカレンダーは野馬追一色。

しかし 2011 年 3 月 11 日『東日本大震災』で相双地方は、すべてを失った。尊い命を津波で亡くし、原発事故で避難を余儀なくされた。

12 年経った今、国の主導『イノベーション・コースト構想』による新たな産業創出で、各市町村は復興・再生に取り組んでいる。

10 年後の相双地方は、最先端技術の工業団地が並ぶ光景になるのだろうか。ふるさととは、人も気質も、文化も日々変貌している。



国重要無形民俗文化財 相馬野馬追



小高神社 はしご乗り奉納



民俗芸能「相馬流山」継承

福島県立相馬農業高校 3 年生



## 【富岡町】

★ 令和5年4月1日午前10時

『帰還困難区域』富岡町夜ノ森・大菅地区約390ha解除。

ゲートが12年ぶりに外された。

しかし、復興拠点外は未だ手付かずのまま。



夜ノ森 桜満開時に解除



『特定復興再生拠点区域』



町の8割は解除される  
郊外の水田 田植え終わる

★ 復興・再生が進む富岡町

商店街は空き家、更地が目立つ。利便性の良い地区に、アパート・簡易ホテルが増設。原発関係者、除染等従事者の利用多い。駅前開発進み跨線橋完成。国道6号線沿い唯一の商業施設は人々で賑わう。



富岡駅 スーパーひたち号停車



商業施設内食堂込み合う



待ちに待った跨線橋完成

★ 『イノベーション・コースト構想』施設稼働

『廃炉国際共同研究センター』2020年開所。研究開発・人材育成・交流・英知事業等。



『廃炉環境国際共同研究センター』『双葉医療センター附属病院』



役場周辺公共施設

★ 住民の生活環境・自治体の取り組み

命を守る病院 『双葉医療センター附属病院』双葉郡の中核医療を担う

観光資源として 『人と桜の共生ゾーン』

災害公営住宅 駅通り環境の良い更地に戸建てを建設

★ 富岡町人口、令和5年3月1日時点

登録者数 11,625人

居住者数 2,087人

町は3年後、3,000人の居住を目指している。



富岡町災害公営住宅



## 【大熊町】

### ★ 原発事故で全町避難

2019年4月10日午前0時、帰還困難区域外の避難指示解除。第一原発立地自治体の避難指示解除は初めて。解除対象は町西側の大川原地区（居住制限区域）と中屋敷地区（避難指示解除準備区域）

- ★ 大河原地区に役場建設、公共施設、商業施設を建設。コンパクトコミュニティのまちづくり整備  
役場職員は避難先から通勤。



大熊町役場



役場案内版



役場内 数人の住民

- ★ 大野駅は、『特定復興再生拠点』内の駅を改築。役場等公共施設から距離があり不便は否めない。この区域の除染・解体等が進捗することで、工業・居住エリアは拡大する。

### ★ 『イノベーション・コースト構想』の取り組み

産業創出に向け『大熊西工業団地』造成。『大熊中央産業拠点』建設。国道6号線東側は広大な『中間貯蔵施設』稼働



里山を削る



新しい大野駅



国道6号線のみ利用

- ★ 住民の生活環境【スマートコミュニティシティ】  
住居内に小川が流れ、設計の異なる戸建てが並ぶ。隣接する役場周辺に、公共施設・温泉憩いの場・飲食店・コンビニが揃った。

- ★ 故郷に戻ったけれど、かつての故郷でなく  
みんな～家こもり～



災害公営住宅

おれ 避難先でじさま亡くなったんだ。そこでここに來たんだ。息子は、おれ一人にできねえって～一緒に住んでくれてんだ。こんなに天気いいのに、だーれも出てこねど。寂しいな



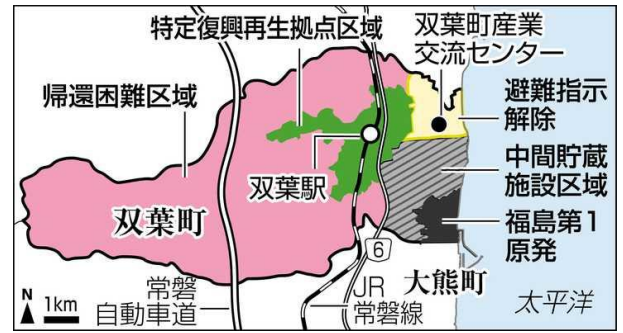
- ★ 大熊町人口令和5年5月1日時点 10,004人 4,852世帯  
居住者数 545人 431世帯

『特定復興再生拠点』区域の除染・住居解体等で居住が拡大し、帰還人口の増加を期待



## 【双葉町】

- ★ 全町民即刻避難。  
町は封鎖された。役場は転々と移動。  
苦難の10年
- ★ 2020年常磐線開通で『双葉駅』改築。  
2022年8月28日『双葉町役場』駅前に建設竣工。  
役場業務が9月8日から始まった。  
駅・役場周辺。『特定復興再生拠点区域』



常磐線『双葉駅』開通



12年経て双葉町役場機能



『初発神社』修復

- ★ 中野地区を『特定復興再生拠点区域』として、居住可能にした。  
『イノベーション・コースト構想』の拠点『東日本大震災・原子力伝承館』建設・開館。  
『産業交流センター』と同時に『中野地区復興産業拠点』を造成し、産業集積に取り組む。  
2023年5月2日24社と立地協定締結に至る。街から中野工業団地に直進する高架橋を建設中



東日本大震災・原子力伝承館



産業交流センター



進出企業 工場&売り場

- ★ 双葉町は『帰還困難区域』期間が長かった。2020年駅前一部解除により、役場・双葉駅建設。街の中心地になる。  
西側に復興災害公営住宅を建設。住宅内に『双葉町診療所』を設けた。  
生活していくには、まだまだハードルが高い。



双葉町災害公営住宅



住宅内に診療所開設



会社社屋建設予定地



両竹地区『帰還困難区域』  
間もなく解除。左後方『伝承館』

- ★ 双葉町人口 令和5年4月30日現在 5,489人 世帯数 2,204  
居住者数 30人 2030年までに 2,000人にする  
(4)



## 【浪江町】

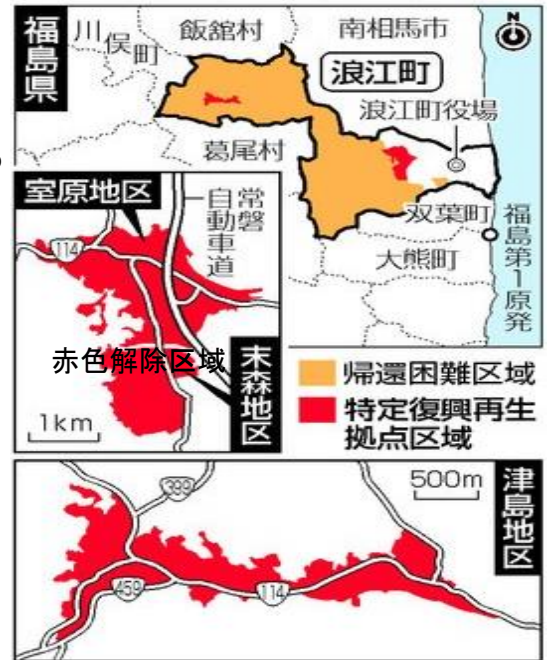
- ★ 浪江町 室原地区・末森地区・津島地区一部解除  
浪江町特定復興再生拠点区域避難指示は、3月31日午前10時に解除。4地区661haと陶芸の杜、大堀相馬焼の里のみ、浪江町の20パーセントに当たる



室原地区屋敷更地跡



末森地区除染仮置き場



- ★ 陶芸の杜・大堀相馬焼の里 家屋解体・除染進捗。  
解除理由～文化的な価値のある施設等の保全・管理  
周辺町道等の整備を行う(環境省)



大堀地区解体・除染作業



解体除染廃棄物山積み



更地後山砂を覆土

- ★ 全市町村における帰還困難区域の総面積の53%以上が浪江町である。その面積は、町の総面積8割以上を占める。『特定復興再生拠点』区域は、除染・建物解体作業で更地が広がる。

- ★ 『イノベーション・コースト構想』 農林業・エネルギー・ロボット・特別教育機関(人材育成)など



津波で残された  
唯一の海岸林  
まだまだ伐採続く



浪江棚塩水素工場



福島高度集成材製造センター



エフレイ借り事務所

- ★ 浪江町まちづくり

駅前再開発プランが動き出した建物の設計は隅研吾  
国道6号線沿いに「道の駅なみえ」賑わう。周囲に商店が並ぶ。  
請戸地区『居住危険区域』。地元海鮮業工場進出。  
幾世橋地区 木造平屋建て団地 A~22戸 B~63戸建設。

- ★ 浪江町人口 令和5年4月2日現在 登録者 15,408人 世帯数 6,674  
居住者数 2,044人 少しずつ増えている



請戸漁港

漁師を辞めるとい



## 【葛尾村】

★ 令和4年6月12日午前8時

北東部に位置する野行地区約9.5ha解除。

県道336線を通る車両が多く、村一軒の食堂は行列。  
役場職員50人は、村外から通勤。



解除後 自宅を見に来た家主



村一軒の食堂行列



避難解除後 一路我が家へ

★ 自然環境を生かしたイベントの実施。

他地域から多くの人たちを呼び込む。

・かつらお感謝祭 ・ツール・ド・かつらお〈ロードレース〉

★ 生業 農業・畜産業・花卉栽培

★ 葛尾村人口 住民登録者数 1,567人・帰村数 465人・移住者 141人

令和5年4月 村制100周年を迎えた

## 【飯舘村】

★ 拠点避難指示は、2023年5月1日に解除。

解除の対象は長泥地区約17%にあたる復興再生。拠点・公園の整備エリア。準備宿泊は3世帯7人。



解除で除染、盛り土作業



長泥地区四辻交通看板



5月1日長泥地区解除



山間の畑は菜の花



長泥地区コミュニティ



再生土壌を利用

★ 飯舘村長泥地区再生利用実証実験を実施

中間貯蔵から出た除染土を水田や花栽培に再利用

★ 飯舘村人口 令和4年3月現在登録者数 4,765人

居住者数 1,518人・移住者数 141人

(6)

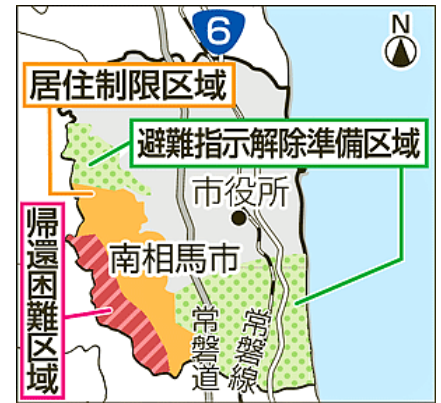


実証実験の畑



## 【南相馬市】

- ★ 2011年3月11日原発で市域は3区域に分断された。  
『帰還困難区域』『避難指示解除準備区域』『居住制限区域』  
2016年7月12日0時指定解除。小高区一部『帰還困難区域』
- ★ 市域の分断により、損害賠償で市民感情に亀裂が生じた。  
12年経っても尾を引く。
- ★ 第三次総合計画 i9I 『復興・再生』を更に進め、  
市民と共にまちづくりを推進する。
- ★ 社会生活が多様な価値観で変化している。これから共助へ。



復興工業団地進出会社



すでに稼働



海岸沿いはソーラーパネル通り

### ★ 南相馬市『イノベーション・コースト構想』

『ロボットテストフィールド』2020年3月31日開所。世界に類を見ない実証環境と言われ、年間を通して、ロボットの実証実験・体験ができる。



北萱浜地区『ロボットテストフィールド』



ロボットを使っでの体験授業



### ★ 市民活動の衰退

2012年から2020年まで、『震災復興再生事業』として、市民団体が地元でふれあい事業を実施して来た。県内外からのボランティアに支えられ【つながり】が続いた。少子高齢化で新たなコミュニティを構築することは容易でなく、新規取り組みを模索しているが困難が予想される。



イベントは黙とうで始まり



締めはハイタッチ



神奈川県団体と交流会

- ★ 市民環境はほぼ整備されているが、若者向けの場がなく、コミュニティの役割が求められる。
- ★ 新旧区域によって交流に差異がある。新しい地区(団地)にコミュニティは必須。
- ★ 南相馬市人口 令和5年5月1日現在 居住者 56,738人 世帯 26,437

(7) 転入 330人 転出 319人とほとんど同数